

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームおつめ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100011		
法人名	社会福祉法人 九戸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームおつめ		
所在地	〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内第8地割15番地1		
自己評価作成日	令和4年9月27日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム周辺の散歩、自宅へのドライブを行っております。天気の良い日には玄関先での日光浴を行い地域の方から頂いた花や育てている野菜の成長を楽しんでおります。外気浴を行うことで、外気に触れて頂き日光を浴びることで季節感を味わい脳への刺激を受け身体の活性化に向けております。口腔ケア、体調管理等に目をくばらせて日々の小さな変化をいち早く気付けることを努力しており、入退所の入居者が少なくグループホームでの生活を送って頂いております。会議時には研修等も行って全職員で話し合えることで職員が同じ方向での介護が出来ているのではないかと思います。生活の中では茶碗を洗う、調理、洗濯等役割を持って入居者、職員、一緒に日々を生活しております。生活の楽しみの一つとして週1回定期的に昼食会を企画しております。入浴時の楽しみとしてゆっくりと入って頂ける浴槽、リフトも完備しております。入浴剤を使用し温泉気分を味わって頂くこともあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

村の中心部に位置する事業所は、近隣に同法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービスセンターがあり、防災訓練等日頃から連携を図りながら利用者支援に努め、法人の経営理念や基本方針を基に個人目標をたて年2回評価しサービスの質の向上に取り組んでいる。家族アンケートや運営推進会議等を通じた積極的な助言、提言により課題の改善につなげている。コロナ禍で家族との関わりや地域交流が制約されているなかで、外出や通院、リモート面会等、利用者や家族の希望に沿って対応している。地域住民の散歩やランニングコースになっているため、玄関前のベンチで休みながら住民と利用者が感染対策を取りながら交流しており、地域との繋がりが家族との関係を大切にしている。また、利用者家族や地域に「広報グループホームおつめだより」を配布するとともに、ホームページやブログなどでも丁寧な情報発信に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、基本方針を基にスローガンとして「安全 安心 快適に」をスローガンとし目標管理計画を定め取り組んでいる。計画した内容について個人目標にも取り入れ取り組んでいる。	現在の経営理念、基本方針は、従来からの内容を職員で見直し検討し、平成26年に改正されたものである。法人内研修や職員会議の資料に記載し共有を図っている。また、スローガンに沿った目標を職員個々に設定し、11月、3月に人事考課に合わせて管理者、所長との面接で評価、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の対策として、ご家族、地域の方との交流は行えていないが、玄関前にベンチを設置、季節の花を育てており地域の方からも休んで頂ける工夫をしている。 地域へ広報を発行しており様子をお伝えしている。地域の方から草刈りのボランティアの協力を頂いている。自宅付近やなじみの場所へのドライブも行っており住み慣れた場所を大切にしている。	事業所に接している道路が地域の方々の散歩、ランニングコースになっており、途中で立ち寄られる方もいる。地域の方々や家族から野菜等の差し入れや、事業所周辺の草刈りのお手伝いをいただいている。地域の災害協力隊等に、活動の様子等を広報を通して伝え、地域との繋がりの維持に努めている。今年は、村のキャリア協力の一環として中学生の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策を行った上で外出や散歩、通院の介助を行っている。入居者が外出先で出会った方とコミュニケーションを取る時に理解を頂くように対応している。職員に対して認知症研修を計画し専門性を高めることに力を入れている。会議時には、認知症留意事項を職員間で話し合っている。今年度は村内中学校へ出向き認知症の勉強会にも参加が出来る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催することで計画している。現時点で3回の開催が行えている。会議前に会議資料、事前意見用紙も配布し活用している。利用者の生活や活動の報告、職員の研修参加内容、是正報告ヒヤリハット報告、身体拘束廃止への取り組み、待機者状況の報告など運営に関する説明を行い意見を頂いている。	現在は感染対策のため法人本部会議室で2カ月に1回会議を開催し、利用者の参加は控えている。災害対策の取り組み、センサー使用の身体拘束廃止の取り組みなど、毎回運営に対して積極的に助言、改善の提言をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員の地域包括支援センター職員や民生児童委員から情報や助言を頂いている。介護保険関係の情報については、法人を通じて頂いている。緊急情報等については、防災無線が施設内に設置されており情報の入手を行っている。	運営推進委員会の委員となっている地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議や入所判定委員会終了後等に情報交換を行っている。また、新型コロナウイルスのワクチン接種に関することや災害対応等については、担当職員に相談しながら対応している。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤職員1名勤務となる時間帯以外は玄関の施錠は行っていない。毎月「身体拘束適正化委員会会議」を開催し所長参加にて検討確認実践を行っている。危険予知訓練についても毎月開催している。是正報告についても検証し再発防止に取り組み拘束とならないケアが職員全員で行えている。	身体拘束廃止に関する指針を策定し、毎月委員会を開催しその廃止に向け取り組んでいる。向精神薬の投薬については、利用者の状態を把握し医師と相談しながら対応している。転倒防止のためにセンサーを使用している利用者は1名いる。スピーチロックも含めた行動制限全般についてチェック(接遇自己チェック)し、危険予知訓練、事故、リスクの発生の検証、振り返り、相互牽制を行っている。夜間は防犯のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳(認知症)ケアマニュアルを職員間で周知し一人一人を尊厳、虐待とならないケアが行える様に確認している。接遇チェック表も活用している。会議等で生活の中で虐待につながる事例が見過ごされていないか発生することがないように徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を必要とする方はいないが、ご家族も高齢となられており今後必要性が考えられる。ご家族からの相談は見られていないが知識として学習していく方向である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時点で施設内の見学や概要の説明を行うことにしている。制度等変更時には文書の発行、重要説明事項書について電話での説明等を行い送付し確認頂き認めて頂いている。また、毎月発行しているグループホームだよりを活用しご家族へお知らせやお願いごとを発信している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱、意見用紙を用意し、どなた方からも意見等を頂けるようにしている。連絡、相談用紙を整備し意見等が職員全体で周知適切に対応が出来る様にしている。年2回家族対象にアンケートを実施している。今年度は9月に1回目アンケートを発送している。法人の苦情処理委員会に所属しており苦情発生時には報告、相談が出来るようにしている。	玄関に意見箱を設置し、介護支援計画の説明や通院付き添いで来訪した際に、意向の把握に努めている。家族からは、「居室から出たがらない時は、皆さんと過ごす声をかけて」「日々の排泄状況を教えて」「トイレを綺麗にして」等の要望があり、意見(苦情)として対応している。毎月一人一人の様子を載せた広報や利用者のケース記録を送付し、また年2回家族アンケートを行い家族の意向把握に努めている。今年度第1回のアンケート調査は9月に実施した。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われているグループホーム会議前に事前意見用紙を職員全員に配布し、意見を出して貰っている。意見については内部での話し合いの法人経営会議、所長面談等に報告し改善に取り組んでいる。	月例のグループホーム会議は、所長以下全職員が参加し、職員の意見を確認、共有しているほか、日常業務の中でも所長、管理者とコミュニケーションをとっている。また、年2回の所長、管理者との面談の際にも職員の意見等を把握している。利用者の転倒事故を受け、職員から提案があった人感センサーや衝撃吸収材の整備等を具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課規程により職員の努力の程度及び能力の保有程度を評価し、勤務意欲の向上と業務効率の向上を目指している。また、各職種手当の見直しを行っている。処遇改善手当など。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を提供している。外部研修については、職場内で伝達研修が行える様に取り組む職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会等の同業者の研修等に積極的に参加するよう努めており、ネットワーク作りや勉強会、研修等を通じてサービスの質の向上につながる取り組みを行っている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活歴や希望を伺い、生活支援援助計画に取り入れている。要望等も丁寧に伺い、不安の軽減に取り組んでいる。本人の行動や言動から本人の想いを受け止め信頼関係を確立し安心して生活が送れる様に努めている。入居してからも継続して対応するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも不安なことや要望を伺い、生活支援援助計画に取り入れ、計画の内容を家族に説明し安心してサービスを利用してもらえるように努めている。状態に変化があった時には、連絡を密に行い、家族と情報を共有しながら対処させて頂いている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族から丁寧にお話を伺い、安心してサービスの利用を開始して頂けるように努めている。法人入所検討委員会においては、外部専門家の出席があり必要とするサービスについて判断し他サービス利用も含め、適切な支援なるように話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間を通して野菜作りを行っており、栽培方法植える時期等入居者さんが主体となって活動している。日常生活においても毎週食事会を開催、日々の食事の用意、洗濯、掃除等も出来る範囲で協力して頂き共に支え合う関係も築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊、外出等本人の意向や希望をご家族に伝え、協力を頂いていたが、現在は感染対策の為ご家族との外泊、外出は行っていない。面会についてはオンライン面会、窓越し面会等感染状況に応じて行っている。嗜好品の差し入れや絵手紙、野菜等の差し入れを届けてもらうこともあり入居者を励まして頂いているケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行った上で馴染の理容店、美容室へ出掛けるなど本人の思いに寄り添った支援に努めている。自宅周辺へのドライブ、自宅周辺への散歩等へ出掛け交流を支援している。初詣や季節ごとに生活していた地域へドライブする事にも力を入れ取り組んでいる。	事業所は、地域住民の散歩やランニングコースとなっており、玄関先のベンチで一休みされる方と馴染みの関係になっている利用者もいる。理美容は、希望に応じて地域の理美容店に出かけている。ドライブでは自宅周辺や初詣などの馴染みの場所にも出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の定例会議、連絡ノート、相談・連絡票にて入居者の状況や情報の確認を行いながら孤立することがない様に入居者同士が良好に関われる様に支援している。職員が仲立ち役に入るなど支え合える様に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度において契約を終了した方はいない。法人内に特別養護老人ホーム、デイサービス居宅支援センター、ヘルパー等の事業所があり相談が行える状況にある。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の思いや希望、不安なことを伺えるように努めている。伺った内容については、連絡・相談票を活用し共有している。ご家族からの要望についても同様に対応し改善に向けている。行動や仕草、体調からも推測し把握に向けている。	自分の思いや意向を伝えることができる利用者は3、4人いる。また、入浴時やドライブ時に個別で対応している時や、日常生活での会話や表情から意向等を把握するよう努めている。得られた思いや意向は、申し送りやアセスメントの際に盛り込むなど、職員間で確認、共有を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者からこれまでの生活や思い出を普段の会話を通じて伺っており、家族からも継続的に生活歴について伺うことを心がけている。在宅サービスを受け入居頂いた入居者については担当した担当者から情報を頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、連絡ノート、相談・連絡票を用いて一人一人の状態の把握に努めている。日々の生活の中での困難になっている事など観察把握し改善に向け努めている。心の負担、ストレスなく生活して頂けるように体調、精神面の支援を継続している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や生活状況のアセスメントを毎月会議等で話し合っている。会議前後においてモニタリング等で変化があった入居者については担当職員、支援専門員を中心に話し合いが出来る。家族からのご意見や要望については面会時や通院前後の電話連絡時や来荘時に伺い、職員間で共有し、生活支援援助計画に取り入れることが出来る。	介護計画の見直しは、1か月に1回を基本としている。担当職員と介護支援専門員が本人の意向や状態を把握、評価しグループホーム会議での検討を経て、支援内容や対応を職員全員で共有し利用者支援に取り組んでいる。ケース記録と一緒にサービス実施経過についても家族に送付し、確認をいただくようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、ケース記録、介護日誌に記録すると共に申し送り、連絡ノート、相談・連絡票に記載し職員間で共有している。家族にも毎月送付している。これらの情報を毎月グループホーム会議での生活援助支援計画の見直しに役立てている。			

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は感染対策の為、入居者通院を職員で対応している。状況の変化に応じて家族へ連絡を取り行っている。予防接種等に関するご家族と連携し職員対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民から施設周辺の環境整備、見守りの協力を頂いている。周辺の散策時等付き添って頂いたり声を掛けて頂いたり日常的に入居者の生活に支援頂いている。地域の駐在所には必要な情報を提供し、連携体制を整えている。感染対策中でも地域の方々の支えは心強い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診することが出来ている。通院時には、家族と連絡を取り状況の報告、通院後の連絡が出来ている。主治医からの家族説明が必要な時には、同行をお願いし対応頂いている。専門医への受診が必要となった場合についても受診が行えている。	入居前からのかかりつけ医に継続受診している。通院は家族対応としていたが、コロナ禍のため感染対策として職員が付き添っている。受診結果を家族に報告して、主治医の説明が必要な時は同行をお願いしている。歯科は月1回の訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護を利用している方はいない。法人内の看護師と連携協力が取れる状況であり、口頭で相談を行いアドバイスを受けている。感染対策では、法人の感染対策委員会会議に参加、情報やアドバイスを頂いている。かかりつけ病院とは電話にて相談が行えており助言を頂き通院が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、支援専門員、管理者が直接病院へ出向き、病院関係者とカンファレンスを行っている。入院後は退院調整看護師から随時電話にて連絡を頂き隊員に向けての情報交換が行えている。ご家族とも病院からの情報を共有することが行えており早期退院が出来る様に努めている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては現時点では行っていない。変化が見られている入居者については、法人経営会議に報告することとし今後に向けた情報交換を行っている。グループホームでの生活が困難となって来ている入居者、ご家族からの相談も受けている。今後も本人ご家族の意向を踏まえながら、グループホームとして出来る最大限の支援を行う事としている。	看取りの対応は、現時点では行っていない。入居時に事業所で出来る範囲を家族や利用者に説明している。重度化した場合には、入院や施設入所について説明するとともに、家族からの相談を受けている。法人の看護師から医療面での助言を受けたり、村で開催した摂食、誤飲予防の研修会に参加し、伝達講習も行っている。重度化した場合は、本人、家族の意向を確認しながら施設入所等について検討していただいている。	利用者の平均年齢が90歳以上という現状から、重度化した場合の対応について、同法人の看護師等を講師に内部研修を行い職員間で共有するとともに、利用者や家族の意向を把握し、対応方針を明確にし利用者支援に取り組んでいくことを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全な暮らしが守られるように、毎月避難訓練を実施している。毎月危険予知訓練として実際に行った事例について研修を行っている。急変時の対応としてマニュアルを基に対応時の参考としている。	/		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災による避難訓練を行っている。入居者、職員が共に安心した暮らしが継続できるように取り組んでいる。居室に、防災頭巾、避難時に入居者確認を行う為のカードを整備している。避難時持ち出し袋には個人カードを整備し本人確認が出来るようにしている。水害避難訓練についても実施出来ている。	毎月避難訓練を実施し、法人、消防署の協力を得て、年1回は夜間を想定した総合防災訓練を実施している。コロナ禍により地域防災協力隊の参加は見合わせている。事業所所在地域が水害想定エリアであるため、村に避難計画を提出している。避難場所は、高台にある特別養護老人ホーム「おりつめ荘」としていたが、避難経路が坂道であるため運営推進委員の助言を受け地域密着型特別養護老人ホーム「おりつめの里」への変更を検討している。食料、日用品、毛布、発電機等を備蓄している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳マニュアルを整備しており職員間で確認し言葉掛けに注意し対応を継続している。法人で毎年行われる理念・倫理・法令遵守の研修会にも参加を予定している。接遇についてもチェック表を用いて個々に自らのチェックを毎月行い年に2回他己チェックを行い施設全体での改善に取り組んでいる。	一人一人の尊厳を守ることを大切にしており、法人の理念や法令順守等に関する研修を受講した職員が伝達講習を行っている。毎月、言葉づかいや身だしなみ、来客対応、スピーチロック等を自己チェックし、年2回他者によるチェックを行い、振り返りの機会としている。また、プライバシーに配慮し、トイレの入口に暖簾を下げ、トイレへの誘導も自然な声かけ対応となるよう心がけている。		
----	------	--	---	--	--	--

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者平均年齢が92歳と高齢化しているが元気な方が多く日常の会話、表情、家族からの情報から得られた思い、希望、関心等の実現に向け、その人の力に合わせ、自己決定できるような問いかけや決めやすく選びやすい働きかけを行い入居者自身で決められる場面を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、ドライブの希望が多く見られ天気の良い日には近くの神社鳥居下まで散歩を行ったり村内ドライブに出掛けている。居室で過ごされたい入居者さんに対しては、体調を確認しながら居室環境を整え自室での生活を支援している。玄関等過ごされたい場所での時間を安全、安心して過ごして頂けるように心がけ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服は選びやすいように、探しやすいようにハンガーやタンスに整理、収納を担当職員が一緒になって行っている。なじみの美容室、理髪店へ個々に出掛けれる事を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事について入居者からの食べたい物を会話から聞き出し献立に取り入れている。野菜を多く取り入れた献立としている。野菜の下準備、盛り付け等常に一緒に行い食事についても一緒に職員も食べている。片付けについても茶碗を洗って頂いたりし協力しながら行っている。出前や地域の弁当屋さんから弁当を配達して頂き食事をすることもあり楽しみの一つとなっている。季節料理にも力を入れ取り組んでいる。	米研ぎ、下ごしらえ、盛付け、茶わん洗いなど職員、利用者による共同作業で食事作りをしている。自家菜園で収穫したキュウリ、ナス、大根や差入れていただく食材などを使っている。誕生日、リクエスト献立、出前の日を設け、希望するメニューを提供しているほか、正月、節分、お盆、クリスマスなどの季節に応じた行事食も取り入れている。会食の様子をホームページブログでも情報発信している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については、摂取量を記録し必要量が摂取出来ているかチェックしご家族にも毎月チェック表を送付している。栄養補助食品も取り入れ摂取量の少ない時等に摂取頂けるようにしている。野菜や雑穀を取り入れ食事形態も柔らかくを基本とし、ミキサー食も対応。義歯のない方、義歯が合わなくなって来ている方には食べやすいように合わせている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては食事前後の緑茶での嗽食後の義歯の洗浄を行っている。義歯のない方については嗽を支援している。義歯洗浄については本人が行える様に介助している。難しい方に対しては職員が対応している。また、義歯は専用の洗浄剤を使用し週2回消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室2か所に1か所のトイレ配置になっている。排泄チェック表を用いて入居者の個々の排泄時間を職員間で共有を行っている。表情や仕草を観察しての排泄の誘導も行っている。バルーンカテーテルの方についても排便についてポータブルトイレでの排泄支援を行っている。日中布パンツを使用し軽失禁パット利用の方が6名布パンツのみの方が3名、オムツ使用者は日中夜間共にいない。	ほとんどの利用者が布パンツで過ごしており、夜間にパットを使用している利用者もいるが、オムツ利用者はいない。排尿、排便とも自立している方もいるが、仕草や排泄チェック表を活用し、声かけ誘導している。失敗した時には、その都度トイレや居室で交換するよう配慮している。経験の長い職員が多く、排泄自立に向けた姿勢で支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や大豆を多く取り入れた食事の提供を行っている。起床時には乳製品の提供や、オリゴ糖を利用し快便となるように取り組んでいる。水分についても起床時、日中に多く摂取して頂けるように工夫しながら声掛けを行っている。夜間についても飲んで頂けるよう対応している。ラジオ体操、歩行についても午前午後と取り入れており出来るだけ歩くことを増やせる様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば希望日に対応できるように取り組んでいる。浴槽が大きくゆっくりと浸かることが出来ている。リフトも完備しており、負担の少ない入浴を支援している。入浴時には入浴剤等を使用することもあり入浴を楽しんで頂けるように工夫している。また、入浴時間についても職員とコミュニケーションができる場面ともなっている。	週2回の入浴を基本としているが、希望する方には、毎日の入浴、足浴にも対応し足浴を支援計画に取り入れている方もいる。職員と一緒に着替え等入浴の準備を行い、一人一人個別に入浴している。入浴剤を利用したり、話しやすい雰囲気づくりに努めており、歌を唄ったり職員との会話を楽しんでいる。さりげない会話から利用者の思いを汲み取る時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごして頂いている。食堂内にもソファやコタツを用意し休息して頂ける環境作りを心掛けている。和室には堀コタツ、コタツを用意し食堂内で傾眠されている方には声を掛け休んで頂くように対応している。夜間の睡眠が快適になれるように水分、栄養排便、運動等の日中の活動を支援している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、通院時の情報提供用紙については、職員が常に確認できるように見える場所に綴っている。薬や、治療方針に変更があった入居者については、状態や様子の変化等観察することに努めている。内服薬や病状について資料を用意し確認をしている。服薬時には服薬前に名前、顔を確認してからの服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花を生活習慣にされてきた方には食堂や居室に花を飾って頂いたりしている。農業に従事されて来た方には職員と一緒に農作業を行い負担のならない程度に年間を通して行っており1年を通して収穫を楽しんでいる。嗜好品についてもご家族からも定期的に届き提供することが出来ている。本人からも要望があり職員が購入している方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム周辺は自然に囲まれており地域住民の散歩コースやランニングコースとなっており入居者が散歩や屋外で日光浴をしている時など声を掛けられることが多く見られている。今年度は感染対策の為密にならない場所への外出を行っている。春は桜、水芭蕉、夏は葉タバコの様子、秋には稲穂の出来具合など個々の要望を取り入れ支援している。自宅を心配されている方については自宅までのドライブを行い安心頂けるように心がけている。	事業所周辺や近隣から入居している方の中には、自宅への散歩を希望する方もいる。天気の良い日には事業所周辺の花をながめたり、玄関前のベンチで日光浴をしている利用者もいる。桜や水芭蕉等の花見に出かけたり、葉タバコや稲等の出来具合など気にかかっているものを見に出かけている。また、自宅周辺や町の様子を観にドライブすることもあり、利用者の要望を取り入れながら支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族からの希望があり本人が居室で管理されている方もいる。事務室金庫にて預かっている方についても、本人から希望があった場合にはお渡ししている。ご家族には毎月お小遣い帳をコピーを送付し確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂内の電話にて希望があればご家族や知人への電話の取次ぎを行っている。手紙についてはご家族から定期的に届いている方、月1回の送付物の中に職員からのメッセージカードと共にカードを書いて頂き一緒に発送している。オンライン面会での面会ができるように整備し遠方の方とも連絡が出来るように支援している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、職員の声、足音等について気を付けている。温度計、湿度計を使用し調節を心がけている。食堂にはコタツ式ダイニングテーブルを用意して足元からの寒さ対策を行っている。玄関にも椅子やベンチを用意し地域の方、入居者が気兼ねなく過ごして頂ける空間作りに努めている。施設内南側には和室も完備しており、くつろげる環境となっている。季節を感じて頂けるように花を植えており、ドライブや散歩時には草花を摘み飾るなどの工夫も行っている。	蓄熱暖房機とエアコンで空調管理している。食堂のテーブルは、冬場はコタツ使用にして暖を確保している。事業所は、回廊式で雨の日にも室内歩行できるようになっており、2カ所の和室のほか、ソファ、椅子を随所に配置し、疲れた時には、会話を楽しみながら休めるようになっている。壁面には、貼り絵や俳句等の利用者の作品が掲示され、過ごしやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、食堂、廊下に座られる場所を多く用意し個々にくつろいでいただける様に工夫している。コタツも用意しており思い思いの場所で過ごしていただいている。居室にも椅子を用意しゆっくりと休息できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染の物を持参して頂くように勧めるなど、入居者が不安とならないように家族と相談しながら工夫したお部屋作りを支援している。ほとんどの方がベッドを使用しているが、その方の身体状況に応じてベッド位置を工夫するなど細やかな対応が出来ている。状況に応じて介護ベッドを利用し本人の負担が少なくなるように心がけている。	蓄熱暖房機とエアコンで空調管理された居室は、利用者の使い慣れた布団や整理ダンス、衣装ケース、テレビ、テーブルが持ち込まれ居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から近い場所にトイレを配置し、施設内は段差のない作りとなっており安心、安全な環境作りを努力している。安全な歩行が行える様に環境の整備を行っている。夜間歩行に不安が見られる方にはポータブルトイレを居室へ用意するなど本人の身体状況に沿った対応を行っている。		